

(別記)

## 弘前市農業再生協議会水田フル活用ビジョン

### 1 地域の作物作付の現状、地域が抱える課題

当該地域は、水田の全耕地面積に占める主食用米作付面積の割合が約5割で、次いで小麦・大豆・非主食用米の面積が多く、土地利用型作物の担い手への集積が進んでいる。

しかしながら、主食用米の需要が減少する中では、需要があり収益の見込めるほかの作物などへの作付転換を促進することで、農業経営の維持・向上を図っていく必要がある。

また、農家の高齢化も進んでおり、農家戸数が減少しているとともに、年々不作付地の拡大も進んでいる。

こうした中、不作付地の拡大を抑制するとともに、現状不作付地となっているほ場については、いかに再整備し地域の担い手に集積していくかが課題となっている。

そのほか、地域の転作面積の半数以上を占める小麦、大豆についても、連作障害や悪天候等により単収が伸び悩んでおり、輪作体系の構築やほ場の改良が必要となっている。

### 2 作物ごとの取組方針等

市内の約5,600ha（不作付地含む）の水田について、適地適作を基本として、産地交付金を有効に活用しながら、作物生産の維持・拡大を図ることとする。

#### (1) 主食用米

前年の需要動向と出荷業者の需要意向を取り入れながら、良食味・高品質生産を推進するとともに、農薬節減米への取り組みを強化し、消費者ニーズに対応した安心安全な米づくりを促進する。

#### (2) 非主食用米

##### ア 飼料用米

主食用米の需要減が見込まれる中、農業者が蓄積してきた稲作の多収技術や既存農業機械を有効に活用できる飼料用米の生産拡大を図る。飼料用米の本作化や生産拡大にあたっては、県設定の産地交付金を活用し、多収品種の導入を図るとともに、生産コスト低減の取組を促進するため、県が推奨する疎植栽培等の生産性向上技術を促進し作付面積の拡大を目指す。

また、副産物である稲わらは、畜産飼料として有効利用を図るため、地域設定の産地交付金を活用し、耕畜連携の取組を進める。

##### イ 米粉用米

取組なし。

##### ウ 新市場開拓用米

新市場開拓用米は、将来を見据えた販路として有望なことから、県設定の産地交付金を活用し、輸出用米等の取組拡大を図る。

エ WCS用稲  
取組なし。

オ 加工用米  
県設定の産地交付金を活用した複数年契約の推進により、実需者との結びつきを強化し、安定した生産を目指す。

カ 備蓄米  
主食用米にかわる作物として安定した生産が可能となる備蓄米について、JA（全農）及び県集荷組合と連携を図りながら、加工用米と一体的に取り組む。

(3) 麦、大豆、飼料作物

麦及び大豆については、県設定及び地域設定の産地交付金を活用し、担い手への集積や排水対策、ブロックローテーションなどの生産性向上に結び付く生産技術の導入を推進することにより、生産拡大と単収増加を図る。

さらに、小麦の裏作として生産性が高いほ場については、高度利用を図るため大豆の立毛間栽培による二毛作を推進する。

飼料作物については、取組なし。

(4) そば、なたね

そばについては、地域の実需者の需要増加に対応するため、県設定の産地交付金を活用し、栽培面積を拡大する。

なたねについては、取組なし。

(5) 高収益作物（野菜等）

地域設定の産地交付金を活用し、農協（部会）の指導マニュアル等に基づく栽培を徹底し、品質向上を図り販売拡大を図る。特に、「枝豆」、「トマト」、「ミニトマト」、「なす」、「アスパラガス」、「にんにく」、「ピーマン」については、振興品目として生産拡大と品質向上を図り産地づくりを進める。

なかでも、「トマト」については、大手企業との契約栽培を生かし、「枝豆」、「ミニトマト」とともに重点振興作物として、農地等の生産環境を整備し規模拡大を推進する。

(6) 畑地化の推進

経営の安定化に向け、野菜等高収益作物が定着化した水田では、県設定の産地交付金を活用し、畑地化を推進する。

### 3 作物ごとの作付予定面積

作物	平成 29 年度の作付面積 (ha)	平成 30 年度の作付予定面積 (ha)	平成 32 年度の作付目標面積 (ha)
主食用米	2,893.2	2,900.0	2,890.0
飼料用米	47.1	50.0	56.5
米粉用米	0	0	0
新市場開拓用米	0	0.5	0.5
WCS 用稲	0	0	0
加工用米	32.0	32.0	35.2
備蓄米	138.8	130.0	152.6
麦	47.5	40.0	52.2
大豆	435.5	440.0	465.7
飼料作物	0	0	0
そば	2.3	2.3	2.5
なたね	0	0	0
その他地域振興作物	74.7	75.6	83.0
・野菜	59.7	0.5	65.1
枝豆	23.5	23.7	24.2
トマト	3.5	3.7	4.2
ミニトマト	0.3	0.6	1.6
なす	1.8	1.8	2.0
アスパラガス	2.6	2.6	2.8
にんにく	2.9	3.0	3.2
ピーマン	2.1	2.1	2.3
その他	23.0	23.0	24.8
・花き	3.0	3.0	3.0
・果樹	11.0	11.1	12.9
・地力増進	1.0	1.0	2.0

#### 4 課題解決に向けた取組及び目標

整理 番号	対象作物	使途名	目標	目標値	
				現状値	目標値
1	小麦	戦略作物収量 向上助成	小麦収量向上取組面積 10aあたり収量	(29年度) 47.5ha (29年度) 188kg	(32年度) 52.2ha (32年度) 206kg
2	大豆	戦略作物収量 向上助成	大豆収量向上取組面積 10aあたり収量	(29年度) 423.4ha (29年度) 124kg	(32年度) 465.7ha (32年度) 136kg
3	飼料用米生産ほ場の 稲わら	飼料用米のわら利用 (耕畜連携)	取組面積 飼料用米作付面積の うち取組面積割合	(29年度) 1.6ha (29年度) 3.4%	(32年度) 3.2ha (32年度) 5.6%
4	大豆	大豆二毛作助成	取組面積 小麦・大豆作付面積の二 毛作取組割合	(29年度) 12.1ha (29年度) 2.5%	(32年度) 25.8ha (32年度) 5.0%
5	枝豆、トマト、ミ ニトマト	重点振興作物助成	作付面積	(29年度) 27.3ha	(32年度) 30.0ha
6	なす、アスパラガ ス、にんにく、ピ ーマン	地域振興作物助成	作付面積	(29年度) 9.4ha	(32年度) 10.3ha
7	野菜、花き、花木、 果樹、その他作物	一般作物助成	作付面積	(29年度) 37.0ha	(32年度) 40.7ha
8	地力増進作物	地力増進作物助成	作付面積	(29年度) 1.0ha	(32年度) 2.0ha